



海星対決 小笠原制す

池田2位 志賀4強



個人戦男子シングルスで2位となった海星学院・池田＝花咲スポーツ公園テニスコート



全道高校テニス選手権

全国高校総合体育大会(インターハイ)予選の第61回北海道テニス選手権大会は10日、花咲スポーツ公園テニスコート(旭川市)で、男女の個人戦が行われた。男子は室蘭支部代表の小笠原陸(3年)と池田蓮(2年)の海星学院同士が対戦。小笠原が6-3で制し、前日の個人ダブルス、団体戦と合わせた3冠を達成した。女子は志賀瑚華(海星学院3年)が4強入り。全国出場を決めたが、体調不良のため準決勝を棄権した。インターハイは8月1日、長野県を舞台に開幕する。(野田篤志)

個人戦男子シングルスで優勝し3冠を達成した海星学院・小笠原陸。花咲スポーツ公園テニスコート



個人戦女子シングルスでベスト4入りを果たした海星学院・志賀＝花咲スポーツ公園テニスコート

男子シングルス決勝は、初の海星学院同士の戦いとなった。団体と個人ダブルスで優勝し、2冠を達成した主将・小笠原と、ノースードから勝ち上がった池田の対戦。道内一を決める舞台は、熱いラリーの応酬となった。

「3冠を意識し、緊張した」という小笠原。松本薫(帯広北)との準決勝は、一時1-5と絶体絶命のピンチ。相手のマッチポイントが3回あったが、8-6で切り抜けた。

対する池田は、同学年の道内ランキング1、2番手を相手に準々決勝、準決勝と撃破。特に準決勝では、第2シードの長峯大揮(札幌光星)に0-3の劣勢から巻き返した。その後は勢いそのままに準決勝を勝ち上がり、決勝を迎えた。ファーストゲームを制したのは池田。「憧れの先輩」という小笠原に対し、集中力を保ち、持ち前の粘り強さを発揮した。

普段から切磋琢磨する後輩との試合に「余計硬くなつた」と小笠原。池田のサードに力があり、「リターンゲームは難しかった」と後輩の成長を認めた。試合は3-2で池田がリード。ここでギアを上げた小笠原が第1シードの意地を見せた。暑さもあり「頭がぼーっとしていた」というが、気合を入れ直した。持ち前の強烈なサーブとフォアハンドでポイントを重ね、決まるたびに自分を鼓舞。6-3で制した。目標だった3冠を達成したエースは「素直にうれい」と喜んだ。全国大会に向け、「団体戦も含め、優勝を目指す」と言えば、「残りの期間でさらにレベルアップしたい」と同じく全国に駒を進めた池田は闘志を燃やす。全道でワンツーフイニッシュを決めた2人は、全国を舞台に頂上決戦の再現を狙う。